

「異文化交流」授業感想レポート

授業を受けた月日	9月22日	先生のお名前	日本経済新聞社 神戸支社支局長 海野 太郎
授業のテーマ	新聞記事から考える「多文化共生」		
今回の講義で知れたこと・感想を書いてください。(提出締切: 9月29日(月))			
現在の神戸市に住んでいる外国人は、6万2127人という外国人の多さに、最近外国人が増えているのって思っていたし、実際に前セゾインメントに行ったとき、店員さんは外国人が居たからこの話を聞いて、納得できる部分もあったけど、神戸市だけで6万2127人は2倍増えられた。また、外国人の多い都市は日本にほとんどないとも聞いて、びっくりした。外国人は日本に技能実習生として働きに来ていて、日本で「学んだ技術と自分の国に持ち帰り、その技術を自国の人に伝える。また、その経験をも宗教を理由にやれないことをできないこともある。 私は、海外に興味もあるし、英語にも興味がある。現在の日本には、外国人が増えているからって、多文化共生が求められるとおもう。異なる宗教や民族、習慣をお互いが理解し、違いを認めたと上で、守るべき「当たり前」を問い直す必要がある。私も将来、外国の方と関わる機会のある仕事につきたいと思っているので、外国の文化についてもっと学びたい。これからもっと発展していくグローバル化に適応するためには、英語と学習だけでなく、外国についてもっと知っていく必要がある。			

「異文化交流」授業感想レポート

授業を受けた月日	9月22日	先生のお名前	日本経済新聞社 神戸支社支局長 海野 太郎
授業のテーマ	新聞記事から考える「多文化共生」		
今回の講義で知れたこと・感想を書いてください。(提出締切: 9月29日(月))			
今回の授業では日本に住む外国人の現状と日本社会における「共生」のあり方について学びました。今まで日本に外国人がどれくらい住んでいるかあまり考えたことがなかったのでも、神戸市の人口の約4%が外国人で全国でも5位というはしを聞いてとてもおどろきました。特にここ10年間で1.5倍くらい外国人が増えておりベトナムやミャンマー、ネパールなど様々な国から技能実習生として働きに来ている人が多いことが印象に残っています。逆に外国人が一人も住んでいない市町村が8つしかないと聞いていつか日本が外国人にのっとられてしまうのではないかと不安に思いました。「共生とは異なる民族、習慣、宗教を理解し違いを認めた上で守るべき当たり前を問い直すこと」という言葉があり、深く心に残りました。多様性を認め合うことは大切ですが、それだけでなく、「何を変えるべきか」「何を守るべきか」を考え直す姿勢も必要だと感じました。今後日本に住む外国人がますます増える中で、単に「受け入れる」のではなく、共に生きていくために、自分は何ができるのか、考え続けていきたいです。			

「異文化交流」授業感想レポート

授業を受けた月日	9月22日	先生のお名前	日本経済新聞社 神戸支社支局長 海野 太郎
授業のテーマ	新聞記事から考える「多文化共生」		

今回の講義で知れたこと・感想を書いてください。(提出締切: 9月29日(月))

今回の講義で知れたことの中で1番印象に残ったことは、

神戸市に住んでいる外国人の人数や、技能学生についてです。

最近では三宮などの人が多いというだけでなく、家の近くの商業施設やバスなどでもよく見かけるようになりました。その他にもバイト先にも色々な国の人が働きに来ています。でも、神戸の4%が外国人だと思っていなくて驚きました。また、コーンロウなどの日本とは違う伝統的なものが身近に感じるようになってきました。バイト先には

ジャメーの人やバングラデッシュの人、中国の人がいます。ジャメーの人は白紙に金色のものを塗っていて、他にも頭に布をまいている人もいました。でも、伝統や文化が違うからといって、悪い人はいなくて、初めてバイト先に外国人が来た時はどう接するのかわからなかったけど、今では日常会話をしたり日本人とあまり変わらずに文化はちがうけどお互いに知らない文化を教えあえるし、その国のことも知れるので、伝統や文化は全く関係ないんだなと思います。

でも、今でも文化の違いで差別されるということがあると知って驚いたし、こういう差別がなくなったら良いなと思いました。

「異文化交流」授業感想レポート

授業を受けた月日	9月22日	先生のお名前	日本経済新聞社 神戸支社支局長 海野 太郎
授業のテーマ	新聞記事から考える「多文化共生」		

今回の講義で知れたこと・感想を書いてください。(提出締切: 9月29日(月))

今回の「多文化共生」の講義を聞いて、日本に住む外国人のことや、文化の違いについて学びました。講義の中で印象に残ったのは、「日本人ファースト」という言葉で、これは日本では外国人よりも日本人を優先してしまう考え方のことです。それによって困っている外国人がいると知って驚きました。日本に住んでいるのに、家が借りにくかったり仕事が見つからなかったりする話を聞いて、不公平だと感じました。また、北海道に外国人が住む理由についても知ることができました。観光地やリゾート施設が少なくて、人手不足を理由に、外国からの働き手をたくさん受け入れていると知って、私たちの生活は外国人の人たちに支えられている部分があると感じました。多文化共生は、ただ一緒に暮らすだけでなく、お互いの文化や考え方を理解し合うことが大切だとわかりました。これから、違いを受け入れる気持ちを持ち、自分にできる小さなことから始めたいと思いました。

「異文化交流」授業感想レポート

授業をうけた月日	9月22日	先生のお名前	日本経済新聞社 神戸支社支局長 海野 太郎
授業のテーマ	新聞記事から考える「多文化共生」		
今回の講義で知れたこと・感想を書いてください。(提出締切: 9月29日(月))			
神戸市に外国人が6万人住んでいることに驚いた。			
また、神戸に住んでいる中で中国人が一番多いと見たが、私の住んでいる地域では、東南アジアや欧米系の人が多いから、中国人が一番多いと言ふことにビックリした。地域によって、国籍が違ふんだなと思った。そして、海外から日本に入ってくる人が年々増えているから、校則に賛否両論があるのかビックリだった。			
外国の文化の違いを認めることは大事だけれど、違いを認めて校則を愛するべきではないなと思った。少し難しい国際問題だなと思った。			
また、授業の中で近年では外国人による治安悪化が起きているという内容があった。ネットで話を盛り上げているだけの可能性がある。と述べていたが、私は実際に街中で外国人がルールを守っていないのだったり、治安が悪い光景を何回も見たとことがあるから、想像と実際で見た人とはイメージが全然異なるんだろうなと思った。私は昔の日本よりも外国人が増えて治安が悪化しているかと体感したから、これから治安が改善できるように何かいい方法がないかなと思った。			

「異文化交流」授業感想レポート

授業をうけた月日	9月22日	先生のお名前	日本経済新聞社 神戸支社支局長 海野 太郎
授業のテーマ	新聞記事から考える「多文化共生」		
今回の講義で知れたこと・感想を書いてください。(提出締切: 9月29日(月))			
私は、講義を受けて今の日本は京都や富士山に外国人観光客が多くいるので字幕が多言語で書かれていたりして外国人の受け入れが進んでいるのではと思っていた。でも、「共生」という部分においてはまだまだ問題点があることを教えてもらった。修学旅行で訪れた北海道は確かに外国人が大半を占めていたが、観光の目的だけでなく、外国人労働者の人口が影響しているとは思わなかったのも勉強になった。また、記事を読んで、あてはまらない人種差別のようなことが学校で起きてしまっていることも悲痛に思った。さらには、国の代表を掲げる政党がいくら票がほしいと言っても「日本人ファースト」という考え方や表現はよくないと思った。 埼玉県のカルト人問題やファクトチェックは、現代のインターネットの普及により、また拡散・誇張されると被害が大きくなってしまった。この防止策として条例を決めたら改善されると考えた。それから、こういった取り組みの積み重ねが誰もが住みやすい町づくりや多文化共生につながっていくと思った。私自身ができることは限られているけど、まずは異なる宗教・文化を理解するために、もっと勉強が必要だと思った。			

「異文化交流」授業感想レポート

授業を受けた月日	9月22日	先生のお名前	日本経済新聞社 神戸支社支局長 海野 太郎
授業のテーマ	99タムル共住について		
今回の講義で知れたこと・感想を書いてください。(提出締切：9月29日(月)) 異文化体験の授業で海野さんの話を聞いて、99タムル共住について深く考えるきっかけを得た。特に印象に残ったのは、ワイルド人の人々が日本社会を直面している差別や生活状況についての話である。日本に馴染んだ人々にとっても、普段は「差別は悪い国の出来物」のように思っていたが、実際には私たちの身元で同じ社会に暮らしている人々が、言語や文化、国籍といった理由だけで不当な扱いを受けていることを知り、とても強い衝撃を受けた。また、差別は表立ったものだけでなく、無意識の偏見や社会制度のなかに潜んでいる目に見えない形で存在していることがわかりました。例えば「教育や就職の場面」で十分なサポートが得られず、自分の努力だけでは乗り越えられない壁に直面している人々がいると知って、「99タムル共住」という異なる理想論ではなく、社会全体で取り組むべき課題だと感じました。この授業を通して、私は99タムル共住について、以前よりも具体的に考えるようになった。今まででは「3000人の人々が日本に付いていく」という程度の認識しかあったが、正直とて自分の生活に関わるものがあると意識し始めています。しかし、授業でワイルド人のものの考え方や、日本社会が実際に起きている差別の事例を知ると、99タムル共住は自分とは無関係なことだと、同じ社会で生きていくために避けて通れない課題だと感じました。特に印象に残ったのは、ワイルド人の人々が日本に暮らすにしているのにも関わらず、就職や教育の面で差別を受けているという話である。 日本に居る同じ人間に差別を及ぼしているのに、国籍や文化の違いを理由に当たり前の権利が十分に保障されていないという現実を知り、とても不公平であると同時に、自分の業界に付いてきた立場にいる人が受けた差別や、表立った差別だけでなく、無意識の偏見や、固定観念によって相手を傷つけてしまうこともあると学び、私も自身も差別の被害者や加害者を見ることがあることを強く感じました。この授業を受けたことで、文化の違いは「自分自身」「99タムル共住は大事」という意識をもち、実際に99タムル共住の出現には社会制度の整備や教育の充実、そして一人一人の意識改革が必要であると感じました。単に「受け入れる」だけでなく、自身の偏見や考え方を理解し、同じ社会の一員としてどう受け入れるかを考えることが大切だと学びました。私自身、これまで異文化や価値観を持つ人々に出会うときには、先入観で判断しがちでしたが、「相手は誰かの偏見や期待で育った人だから、その人自身にできること」ということを意識的に理解しようと努めています。そして、小規模な関わりの中でも偏見や差別をなくす努力が大切だと感じています。			